

## 「日本人の心映す鏡」

NPO 法人福岡歴史研究会副理事長 石合 六郎

### <はじめに>

日本の民俗学の大家・柳田國男の著書に「桃太郎の誕生」がある。今回の論文の道筋があるに違いないと、開いてみ見た。しかし、そこに書かれていたのはいわゆる文化人類学的発想で日本の口承文学を系統的に分類分よとした野心的試みだった。昭和 17 年の著作で西洋文学とアジアを比べる画期的のものであるが、伝承のなかに歴史的事実を探ろうという筆者の論考とは目的を異にする。

「桃太郎ばなし」は日本の五大昔話ともいわれ、日本人に最も親しまれてきた。結論的に言えば、これまで述べたように筆者は「桃太郎は真実だが、温羅（鬼）は後の創作」とする。その桃太郎のルーツは吉備津彦命に代表される四道將軍の派遣という大和朝廷の“鎮撫政策”に伴う物語だと思う。桃太郎の物語のルーツを探ってみよう

### <1> 一番古い「桃太郎」は？

#### ◎全国に分布する

桃太郎の話は全国的に広がる？ 『日本昔話事典』の『ももたろう 桃太郎』の項目には桃太郎は明治時代になっては、国定教科書にも採用されて画一化されたが、地方には異なった型の『桃太郎』も伝承されている。東北・北陸地方では桃が箱に入って流れてくるところがある。また、桃は登場せず、川で拾った箱を開けると小さい子どもがいると説く例もある（新潟）。また、話の展開の部分には変形が多く、『猿蟹合戦』『雁取り爺』『物くさ太郎』『隣の寝太郎』を思わせる話を含む例もある。石川県には『絵姿女房』や『力太郎』と結びついた桃太郎異譚もある。（中略）『野村純一著作集 第3巻 桃太郎と鬼』の中には、福島県・能登半島・南加賀・新潟県・西讃岐・徳島県・岡山県新見市神郷町・山陰地方の桃太郎話や異譚が紹介されている」（岡山県立図書館レファレンス）（註1）



岡山駅東口にある  
桃太郎の像

このほか世界の桃太郎についてまとめたものとして、桃太郎の研究家の小久保桃江氏

(註2)の編著「桃(太郎を世界へ)」には40件のモデル一覧が掲載されている。一覧表を下に引用(表にまとめたのは著者)させていただく。

1	アイヌの桃太郎	十勝方面の話	21	富山県上新川郡の桃太郎	桃が流れて来た話 太田栄太郎氏説
2	青森県三戸郡桃太郎	関敬吾先生説	22	岡山県の桃太郎	桃太郎神社(吉備津神社)
3	青森県五戸郡桃太郎	日本民話読本	23	広島県の桃太郎	尾道市にある広島NHK紹介
4	青森県西津軽郡桃太郎	津軽口碑桃の子太郎	24	奈良県田原本町の桃太郎	吉備津彦命誕生地
5	岩手県紫波郡の桃太郎	朝倉先生説	25	和歌山県勝浦の桃太郎	鬼と桃太郎の遺跡
6	岩手県或地方の桃太郎	桃がチンブンカンブン流	26	愛媛県北宇和郡の桃太郎	嫁捜し桃太郎 大川悦生氏説
7	宮城県桃生郡の桃太郎	桃次郎が生まれお祭をする	27	香川県高松鬼無の桃太郎	桃太郎神社稚武彦命
8	宮城県牡鹿半島の桃太郎	桑島正氏説 金華山が鬼ヶ原	28	九州宮崎県の桃太郎	為朝説、馬琴・菅沼松軒
9	山形県庄内の桃太郎	堀維孝氏説	29	東京多摩地方の桃太郎	関敬吾先生説
10	新潟県中魚沼郡の桃太郎	桃の子昔、神話伝説	30	千葉県鋸山の桃太郎	新聞で報道をされたことがある
11	石川県能登の桃太郎	柳田国男先生説	31	印度ヒマラヤ山麓の桃太郎	キスター川、大きな桃、男子誕生
12	福島県の桃太郎	双葉郡神話伝説	32	印度ラーマヤナと桃太郎	桃太郎の源流、猿、タカ、熊、家来
13	群馬県北橋村の桃太郎	山田川に鬼ヶ島があり桃太郎が鬼を退治した話	33	中国揚子江の桃太郎	大きな桃流れて来、男子誕生
14	埼玉県入間川の桃太郎	桃を食して桃太郎誕生	34	中国西遊記と桃太郎	家来が智仁勇、桃太郎の源流
15	山梨県の桃太郎	北都留郡大月市、猿橋	35	中国雲南省の桃太郎	川を流れて来た桃を娘が食し男子誕生
16	長野県の桃太郎	小県郡、小泉小太郎話	36	韓国の桃太郎	済州島が誕生地という
17	愛知県犬山市の桃太郎	桃太郎神社大加牟津美命	37	讃岐の面白い桃太郎	女の子を桃太郎として育て鬼退治
18	岐阜県本巣郡の桃太郎	桃太郎物語、宝暦三年	38	岐阜県可児市の桃太郎	桃太郎の古跡多数、絵本も完成
19	岐阜県恵那郡加子母村桃太郎	桃太郎神社母性愛より誕生	39	仏教と桃太郎	智信行が犬矩猿に表現
20	福井県敦賀市の桃太郎	桃太郎神社(気比神宮)	40	儒教と桃太郎	智仁勇は天下の達徳也

アイヌをはじめインドやネパールにも桃太郎の話があるという信じられない表である。小久保氏のユニークな発想によるものだ。民俗学の口承文学を比較研究し類型化し、ルーツを論ずるとこうなるのだろう。

このほか、収集されている桃太郎のバリエーションについて、口承文芸の専門家で国学院大学教授の花部英雄氏は「桃太郎の発生」(註3)で、153カ所の伝承地(同書p9~15に一覧表)をリスト化している。場所のみを表(p2)にまとめた。

1	青森県下北郡①	27	山形県最上郡真室川町	53	南蒲原郡下田村	79	西八代郡市川大門町④	105	美方郡温泉町②	131	仲多度津郡多度津町
2	下北郡②	28	最上郡	54	長岡市	80	西八代郡市川大門町⑤	106	鳥取県八頭郡若桜町①	132	仲多度津郡多度津町
3	下北郡③	29	上山市	55	富山県上新川郡大善町	81	西八代郡市川大門町⑥	107	八頭郡若桜町②	133	三豊郡高瀬町
4	三戸郡五戸町	30	南陽市①	56	射水郡小杉町①	82	西八代移市川大門町⑦	108	東伯郡関金町	134	愛媛県越智郡大三島町
5	西津軽郡鯨ヶ沢町	31	南陽市②	57	射水郡小杉町②	83	西八代郡市川大門町⑧	109	東伯郡	135	上浮穴郡柳谷村
6	西津軽郡稲垣村	32	西置賜郡	58	射水郡小杉町③	84	西八代郡下部町	110	島根県大田市富山町	136	宇和島市
7	岩手県下閉伊郡岩泉町	33	西置賜郡飯豊町	59	小矢郡市	85	静岡県磐田郡水窪町	111	大剛市三瓶町	137	北宇和郡
8	紫波郡紫波町	34	福島県双葉郡川内村	60	石川県珠洲市	86	加茂郡松崎町	112	邑智郡大和村	138	高知県高知市
9	紫波郡矢巾町	35	双葉郡	61	羽咋郡志賀町①	87	田方郡中伊立町	113	八束郡八束町	139	福岡県北九州市
10	遠野市	36	相馬郡①	62	羽咋郡志賀町②	88	愛知県北設楽郡設楽町	114	隠岐郡①	140	佐賀県鳥栖市
11	花巻市	37	相馬郡②	63	江沼郡山中町	89	北設楽郡東栄町①	115	隠岐郡②	141	杵島郡白石町
12	東磐井郡大東町①	38	耶麻郡	64	福井県武生市①	90	北設楽郡東栄町②	116	砲岐郡③	142	東松浦郡①
13	東磐井郡大東町②	39	南会津郡	65	武生市②	91	岐阜県恵那郡明智町	117	岡山県川上郡成羽町	143	東松浦郡②
14	東磐井郡	40	大沼郡金山町	66	長野県下水内郡栄村①	92	息那郡上矢作町	118	真庭郡美甘村	144	東松浦郡晋
15	宮城県名取郡秋保町	41	群馬県利根郡水上町	67	下水内郡栄村②	93	郡上郡和良村	119	阿哲郡神郷町	145	三養基郡
16	栗原郡	42	伊勢崎市	68	北安曇郡小川村	94	中津川市	120	阿哲郡	146	唐津市
17	秋田県角館市①	43	埼玉県川越市①	69	北安曇郡中条村	95	山県郡高富町	121	阿哲郡神郷町	147	大分県東国東郡国東町
18	角館市②	44	川越市②	70	小県郡武石村	96	吉城郡上宝村	122	倉敷市	148	東国東郡安岐町
19	北秋川郡阿仁町①	45	東京都東小金井市	71	上伊那郡大鹿村	97	京都府船井郡和知町	123	広島県庄原市	149	長崎県対馬
20	北秋川郡阿仁町②	46	大田区	72	下伊那郡阿南村	98	北桑田郡京北町	124	比婆郡鳥野町	150	上県郡上町
21	平賀郡増田町①	47	市原市	73	山梨県北巨摩郡白洲町①	99	北桑田郡美山町	125	御調郡向島町	151	下県郡豊玉町
22	平賀郡増田町②	48	富津市	74	北巨摩郡白洲町②	100	三重県志摩郡志摩町	126	山口県大津郡油谷町	152	鹿児島県大島郡和泊村
23	平賀郡増田町③	49	長生郡長柄町	75	北巨摩郡白洲町③	101	兵庫県美方郡美方町①	127	徳島県美馬郡一宇村	153	大島郡沖永良部島
24	平賀郡山内村①	50	新潟県栃尾市①	76	西八代郡市川大門町①	102	美方郡美方町②	128	美馬郡一宇村		
25	平賀郡山内村②	51	新潟県栃尾市②	77	西八代郡市川大門町②	103	美方郡美方町③	129	三好郡井川町		以上153件
26	本荘市	52	西蒲原郡	78	西八代郡市川大門町③	104	美方郡温泉町①	130	香川県香川郡香川町		

## ◎確実な資料は江戸で出版



桃太郎話はいつどこで誕生したのだろうか？ インターネット上には『桃太郎』作品は、口承文学から始まり江戸期に入ると次第に本という形態で出版され、読み物として広まっていき、多くの時間を経て今日まで知られることとなった。この江戸期を境に数多くの桃太郎ものが現在まで

桃太郎童話で年代がはっきりした最古のものは「江戸刊行され続けているのである」時代の享保8年（1723）絵本「もゝ太郎」（山崎舞著＝玉藻・フェリス女

学院大学国文学会 編＝掲載）とある。

桃太郎童話で年代がはっきりした最古のものは「江戸時代の享保8年（1723）、江戸日本橋、大伝馬町3丁目板元九屋九左衛門により作られた絵本『もゝ太郎』だ」（「桃太郎を世界へ」p94）といわれている。また、この時期よりおよそ30年前の「元禄期にも似たような赤本（豆本説も）があったともいわれる。

## ◎室町時代に起源か

吉備神社宮司家に生まれ、岡山大教授だった藤井駿氏（故人）は桃太郎話の誕生を室町中期としている。論拠として延徳4年（1492年）の「<sup>いんりょうけん</sup>蔭涼軒日録（京都相国寺鹿苑院＝金閣寺＝蔭涼軒主の日記）」に、「日本一之黍団子」記事があることから推定している。旧第六高等学校教授の志田義秀氏（故人）の著書「桃太郎概論」では、気比神宮の軒下にあった着衣の桃太郎像（後出）と黍団子を根拠に室町後期との結論をまとめている。（市川俊介著「おかやまの桃太郎」（p13～14）

さらに民俗学の権威・野村純一国学院大教授は「現在の昔話の多くの原型は室町時代に成立した御伽草子の中にある。桃太郎の原型ができたのも町時代であろう」との説で、岡山の藤井、志田両氏とも一致している。

## ◎見当たらない江戸以前の文献資料

口承文芸の専門家で国学院大学教授元教授の花部英雄氏は少し考え方が違うようだ。著書「桃太郎の発生」(2021年刊)の中で「桃太郎は説話や御伽草子等にもまったく出てこないで、現在のところ一番古いとされるのが享保八年刊の豆本(五・二×四・〇センチ)の「もゝ太郎」である。



(中略) 明治前後に生れた藤原相之助や喜田貞吉は『桃太郎』

### 明治20年以降「検定教科書」に登場した『桃太郎』

を聞いたことがないということからすれば、『桃太郎』は古く全国に浸透した昔話とはいえないことになる。それではなぜ、標準的な『桃太郎』が現在広く伝承されているのかというと、明治二十年以降「検定教科書」に『桃太郎』が登場し、全国一律に学校教育で使われたことに原因している」(いずれも同書p29)と述べる。

そこで一つ不思議なことがある。桃太郎収集家・小久保氏は「桃太郎を世界へ」のなかで「日本では元禄の終わりごろまでに二十三種類の童話が『渋川版御伽草子』として出版されましたが、その中にはまだ桃太郎はなく(中略)、1722年(享保8)江戸の日本橋大伝馬町三丁目板元、九屋九左衛門によって桃太郎絵本が刊行されました」とある。

同じころ昔話が御伽草子に収録されながら、桃太郎が無視されている。なぜだろうか? 同じような今の童話ふう物語に属しそうなのにである。この点は「<3>モデルはやはり吉備津彦」の終わりで検討する。

## <2>注目の4伝承地を探る

各地域に伝わる口承「桃太郎」のうち、注目の4伝承地として「岡山」「香川」「犬山」「敦賀」について見てみよう。4伝承地選定は桃太郎研究家の小久保氏の著書によった。

## ◎岡山 吉備津神社と吉備津彦神社

岡山県の伝承ではすでに述べたように桃太郎話は温羅伝説から発生したというのが通説だ。本稿「温羅伝説を考える（上）（中）」を通じて述べてきたのは「温羅伝承は室町中期に神仏習合の中から誕生した」との結論だ。それからすれば、前項で述べた「桃太郎の室町時代起源説」とは矛盾なくつながるように思う。



吉備津彦神社の本殿

同時に「吉備津彦命モデル」説ともしっかりくる。しかし、全国的には香川県（女木島と鬼無）や、愛知県（犬山市）の方が有名だったようだ。

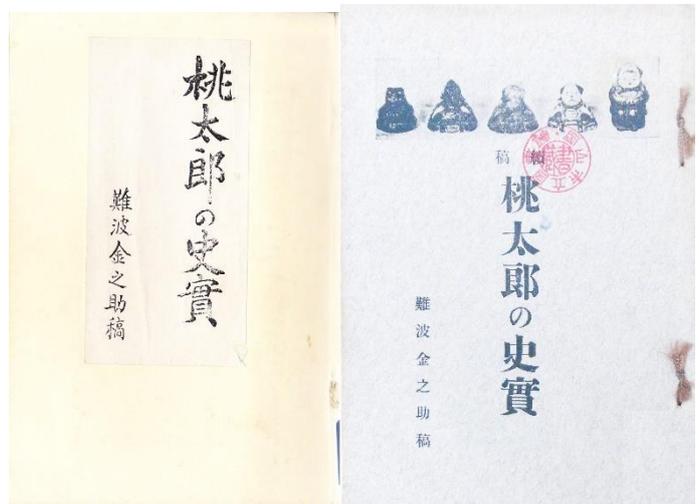
そのあたりの事情を調べてみると、昭和5年に岡山市の彫金師・難波金之助氏が「桃太郎の史實」で「桃太郎は大吉備津彦命」説を発表したが、大きなうねりとはならなかった。同じ年に創建された犬山の「桃太郎神社」の方がよく知られていた。

岡山県では昭和37年（1962年）の一巡目岡山国体を控え、当時の三木行治知事が旗振り役を果たし、自らも“桃太郎知事”と名乗りPR活動を開始、ぽっちゃり体形、ぽっちゃり顔の知事のキャラクターもあって知名度が一気に上がったといわれている。

難波金之助氏＝顔写真＝の著作は24ページ、写真12枚と地図を掲載したA5版の小冊子だった。主題ははずばり「桃太郎の本体は、大吉備津彦命



であります」と。理由や実地調査にもふれている。また、同年「續稿 桃太郎の史實」をも出版。それには「桃太郎の作者を吉備真備公右大臣であると断定します」と述べている。續稿の結論はさておくとして、吉備津彦命をモデルとし、史実に基づくと



する見解は嚆矢に値する見解といえる。

ともに昭和6年に刊行された難波金之助の「桃太郎の史實」④と「續稿 桃太郎の史実」

三木知事以降も岡山と桃太郎を結びつけるキャンペーンは引き継がれてきた。近年は桃

太郎伝説のもとになったとされる「温羅伝承」を取り上げ、単なる鬼ではなく製鉄技術集団と結びつけ、「うらじゃ祭り」が大々的に開催されるなど、地域おこしと結びついている。

## ◎香川 女木島と鬼無の桃太郎神社

女木島の大洞窟の入り口。鎌倉時代の石材をとった後の説もある



私の幼年時代の昭和20～30年代には鬼が島は香川県の「女木島」と教えられた。洞窟がありそこは鬼の住処だと信じていた。香川の人には鬼無を桃太郎のいる

ところと思っていたのかもしれないが、岡山の人には「桃太郎は岡山じゃ、鬼ヶ島は女木島じゃ」と勝手に思っていた。当時は温羅の本拠地とされる鬼ノ城は忘れられた時期でもあった。女木島は今も鬼が島として観光スポットとなっている。ただ、昭和20年代のような熱気はなく、香川大の研究者らは鎌倉時代の石切場跡と説明している。

一方、鬼無（高松市）の方の口承には、桃太郎が女の子だったとする話がある。「おばあさんが川から持ち帰った桃を食べ、若返ったおじいさんとおばあさんに子どもができ、男の子のように元気のいい女の子が生まれる。そして、あまりに可愛いので鬼にさらわれないよう桃太郎と名づけ育てた」と語られている。（wikipedia 桃太郎から）（註4）

この伝説について、うどん県ネット（香川県観光協会）のホームページ（註5）によると「成立の経緯は、讃岐国司だった菅原道真が『稚武彦命が三人の勇士を従えて海賊退治をおこなった』という話を地元の漁師から聞き、それをもとにおとぎ話としてまとめたもの」であるという。

## ◎愛知県犬山 桃太郎神社

とにかく桃太郎神社は派手な神社だ。桃太郎に関する“もの”がすべてそろ

っている。しかも原色に塗られた鬼をはじめ桃太郎や爺々婆々…。

のかな？  
何もかもコンクリートで作っちゃう



どんな由緒があるのかと、調べてみると、昭和5年に初代宮司が神社北の桃山が神山として地元で信仰され、それを拝むための小祠があり、これを現在の場所に移し桃太郎神社とした」（市川俊介著「おかやまの桃太郎」p 54）というのである。

偶然にも難波金之助氏の「桃太郎の史実」発表と同じ年だった。

有名な神社なのにあっけないぐらい縁起がさみしい。ただ、御祭神はおおかむづみのみこと大神実命である。この神は『古事記』では黄泉の国の条に登場、伊邪那岐命が、亡き妻の伊邪那美命を連れ戻そうと、死者の国である黄泉の国に赴くが、失敗してよもつしこめ予母都色許売や8柱の雷神、よもついくさ黄泉軍に追われる。地上との境にあるよもつひらさか黄泉比良坂の麓まで逃げてきた時に、そこに生えていた桃の実を3個取って投げつけると、雷神と黄泉軍は撤退していった。

この功績により桃の実は、伊邪那岐命から「おおかむづみのみこと意富加牟豆美命」の神名を授けられる。そして「人々が、苦しみの激流に落ち、悩み悲しみ苦しむことがあったときには、これを助けてやってくれ」と命じられたという。（註6）

桃山が子供を守る神の山だった。小祠を桃太郎童話に合わせて移転、創設したということのようだ。

### ◎福井県・敦賀 気比神宮

気比神社は北陸の総鎮守である。同神宮



気比神宮

コラム 角鹿（のちの敦賀）の地名起源は日本書記にみえる都怒我阿羅斯等の来敦を起源とする記事のほか。古事記では一浦に御食として打ち上げられたイルカの臭いが強く「血浦」といい、今は都奴賀というの2つがある。

どちらが正しいのか？ 氣比神宮の神官を明治まで勤めていた島家の分家で、氣比庄氣比神社の累代社家の当主、福井市立郷土歴史博物館の角鹿尚計前館長は、季刊邪馬台国 98 号神功皇后特総力集第 2 弾で次のように述べている。

「私はそのキーワードはやはり『氣比』の語源にあるのではないかと思う。（中略）

『ケヒ』は『氣比』とも作るが、『氣』は『ケ』『キ』とも発音し、入れかわることはままあるから、『吉備』と『氣比』は『筍飯』の別の表記といえることができる。

『ケヒ』は御饌（御飯）を示すとすると、『古事記』の地名説話は氣比大神の性格をよく伝えているといえるだろう」という。

このあと御祭神について検討している。長いので筆者の独自の解釈も含むかもしれないが、結論だけを要約してみる。

「信仰上の問題もあるが、角賀神社の祭神を都怒我阿羅斯等と公称したのは事情があって後に変更したもので、もとの祭神は我が家の先祖にあたる建功狭日命だ。子孫は角鹿直及び角鹿国造として奉斎し、吉備氏の支族として神功皇后に従うなど朝廷勢力に参加してきた。吉備との同族意識は強い」。詳しくは同誌 98 号を参照していただきたい。

## 氣比神宮の「氣比」は吉備か

福井市立郷土歴史博物館前館長の見解

は神功皇后の太子（応神天皇）が、主祭神の伊奢沙別命と名を交換した時、そのお礼に浦一面に伊奢沙別の献じた入鹿魚があったことから、太子は伊奢沙別を「御食津大神」と称え、のちにその名が「氣比大神」となったという。

同神宮の 9 末社の一つに「擬領神社」がある。御祭神は建功狭日命である。別伝に大美屋都古神とも、玉佐々良彦命ともいわれる。建功狭日命は「先代旧事本紀」に角鹿国造祖と記されている人物である。この建功狭日命は、吉備武彦命の子である。またこの神宮の御祭神の一柱である日本武尊の妃・吉備穴戸



敦賀空襲で焼失した旧本殿に飾られていた着衣の桃太郎といわれる彫像

武媛は兄弟ないしは姪である。その神宮に桃太郎話がいつごろできたかを決

める物証ともいえる彫像があった。慶長 19 年（1614）に再建された本殿桁梁に「桃から出現する着物姿の人物を彫り込んだもの」（昭和 20 年 7 月の敦賀空襲で焼失）だった。

写真のみ残っている。これが本当に桃太郎を彫り込んでいるとすれば、前に述べた通り桃太郎話の最も古い証拠となる。

### <3>モデルはやはり吉備津彦命だ

前項で検討した4伝承地区のうち3伝承地はなんと吉備津彦命（大吉備津彦と若武彦の総称ととらえた）とその子孫が活躍した地域だった。これは偶然ではない。吉備津彦命の存在すら認めようとしない戦後の歴史学会への痛烈な皮肉のようでもある。

#### ◎見えてきた成り立ち

花部氏は桃太郎の鬼退治の口承を153以上収集＝表2＝している。学生時代に日本の口承（伝承）文化の危機をみて研究者となったという。日本の口承文芸研究の第一人者だろう。氏の研究では、享保8年の「もゝ太郎」以前の口承・文献に出会えてないという。小久保氏も江戸時代の「渋川版御伽草子」には桃太郎は登場しないとしている。

桃太郎の話と御伽草子に掲載された昔話とは成立過程が違うことを認識していたとみることはできないか？ 何らかの歴史的出来事（史実）の一部を反映しているために、御伽草子に採用されなかったのか？ あるいは、天皇家の権威に配慮したという仮説が成り立つかもしれない。

そして、物語の変形の多さは江戸時代中期以降の赤本、黄表紙の普及によって、無数の話者が誕生し史実の痕跡も消え、誰に遠慮することもなく昔話集に収録されるようになったのではなかろうか？

#### ◎四道将軍らの史実も

岡山では桃太郎話は温羅伝説から発生したというのが通説だ。本稿「温羅伝説を考える（上）（中）」を通じて「温羅伝承は室町中期に神仏習合の中から誕生したとの結論」との推論を主張してきた。それからすれば、桃太郎話が温羅伝説の影響を受けていたとの説は説得力がある。桃太郎話も室町時代起源を持つという説とは矛盾なくつながる。

ここからは、筆者の仮説になるが、大和朝廷の列島支配への過程、すなわち「四道将軍の派遣」、「日本武命らの平定」などの記憶を反映していないだろうか？ その理由と疑問点を述べてみる。

① 桃太郎は日本列島全体に広がり、150以上の多様な物語となっている。これは吉備津

彦一人をモデルにしたのではなく、大和朝廷の他の皇子や武将たちの派遣とも重ね合わせていないだろうか。

- ② 江戸中期までの御伽草子に桃太郎が組み込まれなかったのは、大和朝廷の地方進出の史実が含まれ、おとぎ話と桃太郎話を区別していた可能性がある。
- ③ 岡山の民話収集家・立石憲利氏の「桃太郎話 みんな違って面白い」には岡山県内だけで 31 話、県外 13 話が掲載されている。この手法なら全国でさらに多くの物語が収集できそうだ。
- ④ 温羅伝承の三武将（犬、猿、雉）がともに登場するなど互いに影響しあっている痕跡がある。
- ⑤ 讃岐（香川）は稚武彦（大吉備津彦の弟）と関係が深く、田村神社（高松市一宮町）の主御祭神は倭迹迹日百襲姫命で吉備津彦兄弟とは姉弟である。
- ⑥ 日本武尊のお后・吉備穴戸武媛は吉備武彦の妹ないしは娘。尊との間には武卵王たけかひごおうと十城別王とうがある。武卵王の子孫は讃岐の綾氏で。讃岐中部が勢力範囲で、地名としては綾歌郡があり、綾川が流れ、綾川町がある。
- ⑦ 敦賀の気比神宮では桃太郎を認識している証拠は出てきたが、物語は採話されていないのはなぜか？ 日本武尊をモデルにした口承がありそうなのに不思議である。着衣の桃太郎像は男性か、女性かで議論がある。日本武尊説もある。

「桃太郎＝四道將軍ら説」はまだ仮説段階なので今後も調査を進めていきたい。

## <4>時代とともに変容

### ◎温羅伝説の影響と時代反映

吉備津彦命の史実をある程度反映した物語は、温羅伝説と影響しながら、桃太郎の物語が誕生した。江戸中期の出版技術の普及により、庶民層でも語られるようになる。明治になり、国定教科書に採用されるたことで国民に最も知られる昔物語が誕生した。

桃から生まれた男の子の活躍する愛らしい物語だったが、富国強兵の合言葉のもとに、強い男の物語は、国策とも合致していたのだろう。

この時期（明治期）にはナショナリズムの高揚などを背景に尾崎紅葉（「鬼桃太郎」＝明治 24 年）や巖谷小波（「日本昔噺・桃太郎」＝同 27 年）らが独自の桃太郎像を発表している。

大正～昭和期になると大正ロマンティズムの影響もあり浜田比呂助（「桃太郎の足跡」＝政策年不明）、新美南吉（童謡「鬼ヶ島」＝昭和5年）などが登場。芥川龍之介も批判的立場で「桃太郎」（サンデー毎日＝1924.7.1号）を書いている。また、プロレタリア児童文学の影響された江口渥（「ある日の鬼ヶ島」＝昭和2年）らが活躍、戦時下になると佐藤紅緑（「桃太郎遠征記」＝少女倶楽部連載、昭和11年初刊）などが出版され戦争もの一色になる。

◎鬼畜英米は誰が作った？

戦線の悪化の中で、鬼（米英）を退治するのが桃太郎というイメージが出来上がりつつあったのだろうか？新聞紙面上で「鬼畜米英」の言葉があふれていた。平成31年3月に岡山市内で開かれた歴史塾で「近代史のなかの『桃太郎』」（講

（一）（月日） 昭和十八年七月一日（日曜日） 新聞 少年 日三月一年七十和明（昭和十八年七月一日） 年二百六十二元紙

**少国民新聞** 版毎大 日一十月九年七十和明 社日新日毎版大 社日新日毎版大

**桃太郎と日本精神**  
鬼の米英征伐 大東亞戦争  
中道部陸軍大佐 鈴木 木友吉

わが手に勝りました。海軍も陸軍も。マニラもシガタも。わが手に勝りました。海軍も陸軍も。マニラもシガタも。わが手に勝りました。海軍も陸軍も。マニラもシガタも。わが手に勝りました。海軍も陸軍も。マニラもシガタも。

**勝つは大和魂**  
去年 十二月八日、旅を載せ世界の大和魂を。去年 十二月八日、旅を載せ世界の大和魂を。去年 十二月八日、旅を載せ世界の大和魂を。去年 十二月八日、旅を載せ世界の大和魂を。

**鬼の米英征伐 大東亞戦争**  
中道部陸軍大佐 鈴木 木友吉

**桃太郎のまき団子**  
第一 上申し上げ。第一 上申し上げ。第一 上申し上げ。第一 上申し上げ。

**お供の犬・猿・雉**  
さて、果ては。さて、果ては。さて、果ては。さて、果ては。

**鬼の米英征伐**  
鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。

戦線下の悪化を憂く。戦線下の悪化を憂く。戦線下の悪化を憂く。戦線下の悪化を憂く。

大東亞戦争の。大東亞戦争の。大東亞戦争の。大東亞戦争の。

鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。

桃太郎のまき団子。桃太郎のまき団子。桃太郎のまき団子。桃太郎のまき団子。

お供の犬・猿・雉。お供の犬・猿・雉。お供の犬・猿・雉。お供の犬・猿・雉。

鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。鬼の米英征伐。

師・石井雍大氏)と題する講座が開かれた。その時配布された資料に大阪毎日新聞発行の「少国民新聞」(昭和17年1月3日、大阪版)がコピーされていた＝p17の**写真**。そこには「桃太郎と日本精神 鬼の米英征伐 大東亜戦争 中部軍司令部報道部陸軍大佐 鈴木友吉」のトップ記事が掲げられている。次いで「勝つは大和魂」「體を鍛へよ」「桃太郎のきび團子」「お供の犬・猿・雉」「鬼の米英征伐」の見出しが並ぶ。

子供向けの新聞とはいえ、あさましいばかりの精神主義だ。「きび團子は質素な兵糧、米の團子を持っていくようでは鬼を征伐出来ない。先ず質素にやらなければ物事は成功できない事を教えてみるものです」という。今から見るとなにか間違っているようだ。

ここで出てきた「鬼畜米英」という言葉は朝日新聞が最初に使ったとされる。インターネットのチャンネルくらの情報(註8)では、ゾルゲ事件で刑死した尾崎秀実朝日新聞記者(近衛文麿のブレーン)が創作したともいわれている。つまりスパイが作った言葉を新聞で使い、軍や政府もそれに倣った。何かブラックユーモアを見ているようだ。

## ◎戦後、劇的に変わった鬼の姿

終戦を経て多くの価値観が変わった。歴史もそうだった。岡山市立中央図書館にNHK岡山放送局のラジオで放送した台本(郷土史を飾る人々シリーズ)が残っていた。昭和32年のものだ。吉備津彦が退治した鬼の温羅の描かれ方が180度転換、次のようなナレーションがある。

「ところで、大和朝廷のこしらえた神話伝説は大和朝廷に都合の者をすべて『まつろわぬ者』とし『賊』とし、『鬼』としていますが、それが文字通り『賊』であったり『鬼』であったとは、新しい歴史が承知しないでしょう。温羅というものも朝鮮半島から渡ってきた帰化人で、彼等は当時としてはかなり程度の高い文化を持っていたと推測されます。即ち彼等は鏡や玉、進んだ陶器を作る文化、衣類を織る文化、また、進歩した農耕の文化も持っていました。その故にこそ吉備の地方は、早くから開けたわけで、その文化を自分の勢力下に置きたいということはおかねてからの大和朝廷の希望でした。かくて吉備津彦兄弟の戦いが起こりこれをほろぼして大和王朝廷は新しい吉備の文化をその傘下に加えることができたのです」

史実や伝説からみて、この文章は突っ込みどころ満載だが、それは置くとしても米占領下でGHQの意図をよくくみ取って、自らの文化や歴史を無自覚に否定、あるいは自虐史観というべきか。「NHK史観」の芽生えを見ることができる。

## ◎楽しい“温羅”が登場

平成6年（1994年）に岡山商工会議所青年部の発案で「うらじゃ祭」が始まった。温羅にはもう悪党の面影はなく、ソーラン節やよさこい祭りのように、派手な衣装で踊り狂う若者のたちでにぎわっている。新型コロナの影響で2年間中止となっていたが今年から



3年ぶりに開かれたおかやま桃太郎まつり。うらじゃ踊りを楽しむ若者たち＝令和4年8月21日

感染対策をとったうえで再開された。規模は小さくなったものの、顔に独自の工夫を凝らした笑顔が見られた。

そして、平成30年には「『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」のキャッチフレーズで岡山県南4市（岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市）が日本遺産に指定された。

今回の「温羅伝説を考える」シリーズは、この日本遺産指定に水を差す内容となっている。観光キャンペーンをすべて否定するつもりはないが、4世紀に実在した吉備津彦命の薄れゆく伝承と温羅伝承の架空世界はどう違うのか、事実と創作世界を区別して後世へ伝える理性を保ってもらいたいとただただ願うものだ。

## <おわりに>

岡山を代表する土産・きび団子にはあえて触れていない。吉備津彦命上陸地と伝えられている岡山市南区妹尾地区にその伝承がある。それについて私自身が詳しく取材できてい

ないためだ。江戸時代以前から続く<sup>どうぜん</sup>同前家は「ぼた屋」といわれる。今は営業していないが、大正の中頃まで正月には吉備津神社から禰宜が同家を訪れ白扇と御守礼届けていたという。そんなぼた屋の吉備団子と日露戦争で呉港から故郷へ帰る兵士へ岡山土産として売り始めた吉備団子とを食べ比べてみたいと思う。桃太郎話と同様に時代とともに変わっていったのだろうか。

今回は古代史を逸脱、桃太郎を通じ日本人の心の変化を見ることになった。>

<注釈一覧>

(註1) 岡山県立図書館レファレンス

<http://digioka.libnet.pref.okayama.jp/detail-jp/id/ref/M2014101011514069219>



(註2) 小久保桃江氏 岡山県川上郡備中町(現高梁市)出身。桃太郎は世界に通じる平和思想者ととらえる独自の考えに基づく研究者。2004年発刊の著書「桃太郎を世界へ」には現在103歳と記されている。

氏の著書、論文群はユニークな存在だが、一種の桃太郎に関するエンサイクロペディアとなっている。

ウィキペディアのリンク

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E4%B9%85%E4%BF%9D%E6%A1%83%E6%B1%9F>



その他関連リンク

<https://www.peachboy.tokyo/blank-9>



(註3) <sup>はなべひでお</sup>花部英雄著「桃太郎の発生」



日本の国文学者・民俗学者。口承文芸が専門。

國學院大學元教授。青森県出身。

著書に『西行伝承の世界』

『呪歌と説話 歌・呪い・憑き物の世界』

『桃太郎の発生 世界との比較からみる日本の昔話、説話』など

(註4) 香川の桃太郎



Wikiprdia 桃太郎のアドレス

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A1%83%E5%A4%AA%E9%83%8E>

(註5) うどん県のリンク

<https://www.my-kagawa.jp/point/429>



(註6) 犬山の桃太郎神社 Wikipedia のページ

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A1%83%E5%A4%AA%E9%83%8E%E7%A5%9E%E7%A4%BE\\_\(%E7%8A%AC%E5%B1%B1%E5%B8%82\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A1%83%E5%A4%AA%E9%83%8E%E7%A5%9E%E7%A4%BE_(%E7%8A%AC%E5%B1%B1%E5%B8%82))



(註7) 気比神宮 Wikipedia のページ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%A3%E6%AF%94%E7%A5%9E%E5%AE%AE>



(註8) チャンネルくらの I T 情報

憲政史研究家倉山満らによって 2013 年に開始されたインターネットテレビ。歴史、政治、経済、国防を主なテーマとしている。

著者プロフィール：石合 六郎 (いしあい・ろくろう)



昭和 20 年 4 月、岡山県倉敷市児島田の口に生まれる。児島高校を経て立教大学文学部史学科を昭和 44 年卒。同年山陽新聞社入社、政治部、整理部、東京支社編集部などを経て、システム部署で新聞データベース構築に携わり、平成 17 年システム局次長で退職。同社嘱託を経て、川崎医科大学に勤務、同 19 年退職する。

東京支社時代、取材で同郷の安本美典氏と知り合い、邪馬台国九州説に共感、その後、九州の遺跡探訪中に福岡歴史研究会の大谷賢二理事長と知り合い、同研究会古代史講座を立ち上げ、講師も務める。同会の古代史イベントを担当、歴史ツアーなどを企画、運営。地元吉備にも興味を持ち、伝承を調査研究。現在、同研究会副理事長。現住所は岡山市中区。